

令和2年度 第1回高浜町総合教育会議 会議録

開催日時	令和2年5月11日(月)	開会 18:00 閉会 19:05
開催場所	高浜町役場 全員協議会室	
出席者	町長 野瀬 豊 教育長 釣本 眞史 委員 福田 敏弘	委員 松浦 博子 委員 濱野 秀子 委員 江川 雅也
事務局	【教育委員会事務局】 局長 的場 均 次長 堀口 剛 【総合政策課】 課長 永禮 義己	
1. 町長あいさつ		
野瀬町長	先の町長選で再選を果たし、引き続き4期目がスタートする。選挙の際に掲げたマニフェストの教育部分について、本日お集まりの皆様にご意見をいただきたい。	
2. ① 町長マニフェストについて		
野瀬町長	<p>人口減少と少子化が重要なテーマと考えており、教育関係においては、現在、奨学金返還制度を進めている。高浜町にお住いの方が、高浜町に住んでいることにお得感を持っていただければと思う。</p> <p>子育て世代の負担軽減・子育て環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆保育所・小中学校の給食費を無償化。 今期の政策の目玉としている。 ◆小・中・高校の入学時に「入学準備金」を給付。 それぞれの入学時には、制服や体操服の購入など何かと費用がかかるので、手厚くサポートすることで、在学中は経済的な負担がかからない制度を作りたい。 ◆小・中学校の教材費の無償化。 ◆中学生の通学定期券を無償化。高校通学においても補助率アップ 中学生の自転車購入補助も現在の1万円からアップさせたい。 ◆より良い保育環境を実現するため、高浜・和田保育所をリニューアル整備。 園部に広い用地を確保し、高浜保育所移転整備を進めている。 ソフト・ハード両面から保育環境を充実させる。 ◆子どもがのびのび遊べる基幹的公園の整備。 園部の土地がかなり広いので、基幹的な公園も併設する予定。 どのような属性の公園にするのか、今後計画していく。 	

野瀬町長	<p>高浜町には広い公園がないので、和田保育所付近にも公園を計画している。脇坂公園の整備も併せて進めていきたい。</p> <p>人を創る、コミュニティーを創る、そして未来につなぐ</p> <p>◆若い世代や女性の新たなコミュニティ形成をサポートする施策の実施。</p> <p>高浜のような小さい町のコミュニティーは、居住地域である行政区が基本で、行事なども各区単位で活動しているが、高浜の中心街での人口減少率が高いのは塩土区・事代区で、30年前と比較して5割以上の人口が減少している。</p> <p>要因はいろいろあるが、話を聞くと、七年祭りのしきたりなどが厳しく、若者にとっては窮屈で、負担感やプレッシャーに繋がり、それらの縛りが無い湯谷区に住む傾向にあるとのことだった。従来型のコミュニティーも大事だが、今の時代に合った、似たような価値観を持った人たちでグループ化できないかと考えている。行政から住民に対して手厚く援助しても、生活に縛られた感があると、相殺されてあまりお得感が出ないので、いろいろな切り分けのコミュニティーを創っていきたい。</p> <p>◆育成が望まれる人材分野を明確にし、必要な研修・セミナー等の開催。</p> <p>人材育成が重要であることは理解しているが、何か漠然としていて、高浜町に必要な人材はどの分野のどのような人なのか、そこを見極めて研修などを開催し、スキルを持った人を確保したい。</p> <p>◆学びから行動への移行をサポートするトライアル（試行）事業応援制度の導入。</p> <p>内発的にそれぞれのコミュニティーから出た提案を応援して、具体的なアクションに繋げていきたいと考えている。</p> <p>◆役場職員の民間出向制度や効果的な研修制度の導入。</p> <p>現在でも県庁や近畿経済産業局に出向しているが、役場同様の公的なところなので、民間に年単位で出向させていきたい。</p> <p>ここには掲げていないが、私がいつまで町長をするのかにもよるが、将来的に迷惑をかけない、安心して次の世代が舵取りできる財政状況を作ることも意識している。</p>
江川委員	<p>人材育成は社会教育部門になるのだろうか。教育委員会管轄だと何をどうすればいいのだろうか。具体的な行動や所管課などが整理できれば、今後の流れが頭の中で整理できるのだが…。</p>
野瀬町長	<p>例として文化協会などが挙げられるが、進め方としては、総合政策課で大まかな戦略を計画し、教育委員会で実行していくようなイメ</p>

野瀬町長	ージになるのではと考えている。行政側から押し付けるのはよくないが、誘導することは必要だと考えている。
江川委員	高齢者は公民館講座などで学習の機会はあるが、若者はそのような機会がないので、そこをターゲットにした若者向けの施策になるのだろうか…。
野瀬町長	特に若者をターゲットに絞っていないが、30代は子育てで忙しいので、20代が主軸になって動くのもあまりイメージできないので、40代が主軸になるのではないかと思う。何かしらオープンにできる環境があれば、街に活気が出てくるのではと考えている。
釣本教育長	高浜町の教育の特色は人権教育だと考えている。先輩から受け継いできた取り組みでもあるので、将来に向けて繋げていきたい。高浜町にも残念ながらイジメはあるが、その解決に向けて、どう関わっていくかのノウハウは、経験上ある程度は蓄積できていると思うので、これらのことを実際に子供たちに考えさせていくのは、人権教育として大きな柱だと考える。町長の政策により保護者の経済的な負担が軽減することはとてもありがたい。まずは家庭が安定していないといけない。子どもの成長の中で不安な面がある時は、家庭の中でも経済的なことや人間関係で不安な面があることが多い。経済的基盤を整えることにより、子どもたちが安心して学べるようになればよい。
野瀬町長	人口減少対策として、舞鶴や小浜に家を建てるより、高浜に建てた方がよいと思わせたい。ただし、町内に建てるといっても、宅地がたくさん余っているわけではなく、空き家も増えてはいるが、道路が狭く、駐車場もない敷地もあるので、住宅政策も併せて進める必要がある。高浜だったら新しいコミュニティーも形成できるということも、同時に進めていきたい。
2. ② 新型コロナウイルス対策について	
野瀬町長	<p>防疫対策と支援対策の2つに分け、専決予算として補正を組んだ。4月の専決予算は事業者への支援を重視した。</p> <p>町民のくらしへの支援</p> <p>高浜町は1世帯に5千円分の赤ふん坊や通貨を配布した。その通貨で県が用意したマスクを購入してもらう計画だったが、ゲンキーではその通貨が使えないので、代わりに何か必要なものを購入してもらえればと思っている。</p> <p>中学校でオンライン授業を実施するために、タブレット端末を300台購入した。すぐ納品できる予定だったが、コロナの関係で現在100台くらいしか入っていない。</p>

野瀬町長	<p>事業者への支援</p> <p>持続化給付金は、国とは別の高浜町版を作った。国は 50%以上の下落だが、高浜町版は 30%以上の下落で OK にした。最大 30 万円を法人・個人を問わず支給する。</p> <p>中小企業応援給付金は、運転資金を借り入れした事業者に対して、融資額の 10%を給付する。</p> <p>飲食業でテイクアウトやデリバリーが増えてきたので、その包装容器の購入も支援している。また、町内の観光イチゴ園にコロナで客が来なくなり、余ったイチゴを農協に出荷することになったので、パックなどの出荷経費も支援する。</p> <p>雇用調整助成金などの申請手続きは複雑なので、申請を代行された場合の代行費用も支援する。</p> <p>感染症対策</p> <p>高浜病院にサーモグラフィーを整備し、また、梅雨時期の大雨による避難所開設の際のコロナ対策として、間仕切りやマスク、消毒液などを用意する。現在使用していない教職員住宅も、コロナ用の避難施設として確保する。</p> <p>その他に、大学生等への支援として、大学生や専門学校生などはアルバイトができない状況で、このままでは学費が払えず大学を辞めてしまうことになりかねないので、学生生活が維持できるよう、期間限定の給付金を計画している。</p>
福田委員	<p>経済支援については、定額給付金 10 万円のように全員を対象にするのではなく、本当に困っている人を対象にすべきだと思う。誰が困っているのかを特定するのは難しいが、子育て世代は特に困っていると思うので、給食費無償化や入学準備金、通学定期券補助など、対象者を絞るのは良いと考える。</p>
野瀬町長	<p>高浜町は 1 世帯に 5 千円分の赤ふん坊や通貨を配布した。誰が困っているのかを正確に把握することが難しいので、国からの特別給付金 10 万円でとりあえず凌いでいただけたらと考えている。</p>
釣本教育長	<p>話は変わるが、内浦小中学校は人数が少ないので、その中でどういいう学びができるのかを考えてみると、オンラインで高浜中学校と授業のやりとりなどができれば、人数が少ない故に集団の中での学びができないというマイナス面を解消し、更にプラス面である少ない人数による丁寧な教育が生きてくると考える。タブレットでのオンライン授業により、内浦でも集団の中で学ぶことが可能となるので、今後は、児童・生徒数が減少したからといって、すぐに統廃合するのではなく、内浦の良さも生かしながら、授業を進めていけたらと思う。また、オンライン授業は、中学生の長期休業中の補習としても活用できるのではと思う。コロナによる学校休業中は、子どもたちは家</p>

釣本教育長	<p>でゲームばかりしていると聞いている。通常の生活習慣に戻す必要があるのですが、5月7日・8日は全町登校日とした。今週から週1回登校日とし、5月18日頃から週2回にしていく予定で、6月には再開する可能性がある。</p>
松浦委員	<p>最近、クリエイターがテレワークで仕事することが多いが、高浜町でもテレワークできる環境が増えれば、人口増加が期待できるのではと思う。例えば、舞鶴の自衛隊の方は、青郷に家を建てる人が多いので、高浜町を選んだ理由が何かあるのではと思う。それを全国に発信できれば移住者が増えるのではないか。</p> <p>内浦の子どもたちは、発表会などを見てもクリエイティブ能力が高いと感じるので、大学等で一旦町外に出たとしても、環境が整っていれば、また高浜町に戻ってきてくれるのではと思う。</p>
濱野委員	<p>子育てをするにあたり、愛情だけでは育てることはできず、節目節目で経済的な負担も大きいので、町長の政策にある給食費無償化などの援助は、大変助かると思う。</p>
野瀬町長	<p>地方創生が叫ばれた時に、各自治体で総合戦略を考えるようになり、高浜町はどこに力を入れるべきかを考えた結果、お子さんがおられるであろう20歳～40歳の女性をターゲットとした。当時の推測では、高浜町は2050年に消滅可能性都市の1つに挙げられていたので、そこをターゲットとした一定のボリュームを今後も維持していくことを考えている。</p>